

## S-KYT(消防団危険予知訓練) 研修を実施して

黒石地区消防事務組合 消防本部  
警防課消防団係 主事 佐藤 宏亮

### 1 はじめに

#### ・あずましの里くろいし

黒石市は青森県のほぼ中央に位置し、総面積の約8割を占める山岳地帯が八甲田連峰に連なり、平坦部が津軽平野の一部をなすなど、豊かな自然に恵まれ、味の良い「黒石米」と「黒石りんご」の産地として知られています。

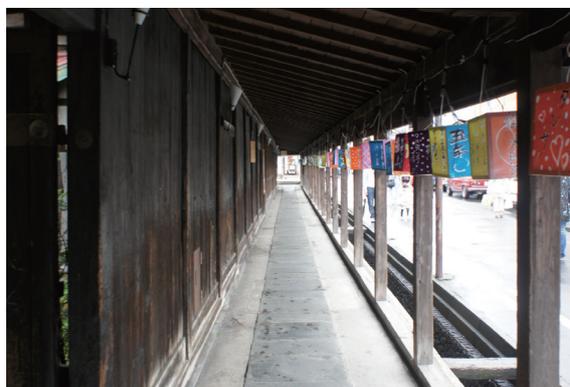
また、十和田湖の西玄関口にあたり、東北自動車道ICを擁し、青森空港や東北新幹線新青森駅まで30分と観光地へのアクセスにも優れ、四季の彩豊かな魅力ある田園観光都市としてまちづくりを進めています。

#### ・重要伝統的建造物群を活用したまちづくり

明暦2年(1656)に津軽信英公が津軽藩から分知以来、城下町として栄え、明治以後も南津軽郡役所の所在地として、政治・経済・文化の中心をなしていました。そのため、今も町並みや町名などに当時の名残をとどめています。

「日本の道100選」に選ばれた中町の「こみせ通り」には、夏の暑い日差しや冬の吹雪・積雪などを防ぐ木造のアーケード状の通路が現在も残り、藩政時代の面影があります。また、重要文化

財の「高橋家住宅」や市指定文化財の造り酒屋「鳴海家住宅」をはじめ、商家造りの住宅が多く軒を連ね、重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。これらは文化財としての保全は当然のことながら、商店街活性化の起爆剤として、また、観光資源としての利活用を図るため、住民の皆さんと協力しながら町並みの整備を進めています。



木造アーケード通路「こみせ」

#### ・中野もみじ山

藩政時代、京都から『かえで』の苗木100余りを取り寄せ、中野神社に奉納したことが起源とされる中野もみじ山は、もみじの名勝として名声を高め、小嵐山と称されています。



もみじの名勝として名高い「中野もみじ山」

## 2 黒石市消防団の概要

黒石市消防団は、1町4村の合併により青森県内4番目の市制が施行された昭和29年7月1日に設置されました。現在、消防団は団員定数860名、消防団本部と9分団、48消防部で構成されています。各種災害に迅速かつ的確に対応するため消防ポンプ自動車17台、可搬式ポンプ積載車31台を配備し、火災はもとより、あらゆる災害や広報・警戒活動等に力を発揮しています。

## 3 S-KYT 研修を実施した経緯

黒石市消防団では、毎年12月に部長以上の団員を対象とした研修会を実施しています。今回は新たなガイドラインに基づいた心肺蘇生法の講習を行いました。今回は、消防基金と県消防協会との共催で開催したS-KYT研修を消防団の事務担当者が受講した際、大変有意義だとの報告を受け、ぜひ消防団でも実施しようと幹部からの意見もあり、消防基金の協力を受け開催に至りました。

## 4 S-KYT 研修を実施して

平成24年12月2日(日)13時から、黒石市消防団でははじめてとなる「S-KYT研修(4時間コース)」が始まりました。総勢80名の団員が参加し、2つの会場で実施しました。副分団長以上の団員は4班に、部長の団員を8班に分け、それぞれ研修を行いました。



今までの消防団活動において、危険予知訓練を行った経緯がなく、はじめは戸惑う団員もいましたが、研修が進むにつれ、声も大きくなり、指差し呼称や唱和、タッチ&コールを行う掛け声が会場に響き渡りました。

今後の訓練や点検時において多くの危険要因が存在することを再認識でき、安全管理・事故防止対策に大いに役立つ研修であることを実感しました。

## 5 おわりに

研修に用いた危険予知訓練は災害現場に即しており、特に指差し呼称においては、単純なようで現場に潜む危険を事前に察知し、それを回避するために非常に有用な作業であり、災害活動だけでなく、日常生活においても大いに役立ちます。研修に参加した団員からも「非常に為になる」、「今後も続けてほしい」等の意見が多く出され、このS-KYT研修を実施して本当に良かったと思いました。

常日頃、市民の安心・安全のために尽力されている消防団員の皆さんは、家庭や職場においてもかけがえのない存在であります。今後も活動等で絶対に怪我等ないように、引き続き災害防止に努めていきたいと考えています。



「黒石市消防団 ゼロ災でいこう！ヨシ！」